

表-1 環境安全品質管理（年次検査，出荷検査）方法の整理

用途	放出経路	最も配慮すべき 暴露環境	利用方法 ²⁾	検査の 種類	試験対象の化学物質			頻度	試料	試験方法	受渡判定値
一般用途 ¹⁾	環境への溶出 （地下水等） 且つ 人の直接摂取 （粉塵など）	利用後の用途 （再生路盤材）	非限定 （A-1）	年次検査	8元素 ³⁾			1年以内	骨材	溶出	一般用途溶出量基準
				出荷検査	出荷検査を省略する元素 ⁵⁾						
					出荷検査を省略しない元素			製造ロット毎	骨材試料	含有	含有量基準
			限定 （A-2）	年次検査	8元素 ³⁾			1年以内	利用模擬 または 骨材 ⁶⁾	溶出	一般用途溶出量基準
				出荷検査 判定値を 設定する 試験 ＋ 出荷検査	出荷検査を省略する元素 ⁵⁾						
					出荷検査 を省略し ない元素	出荷検査判定値を設定 しない元素		製造ロット毎	骨材	含有	含有量基準
						出荷検査 判定値を 設定する 元素	出荷検査判定値を設定する試験	3年以内	利用模擬	溶出	] 検量線作成
									利用模擬	含有	
								骨材	含有		
						出荷試験		製造ロット毎	骨材	含有	検量線による判定値 と 含有量基準×10 ⁴⁾ の低い方の値
港湾用途 ¹⁾	環境への溶出 （海水等） 且つ 環境への蓄積 （海産物等）	最初の用途	非限定 （B-1）	年次検査	8元素 ³⁾			1年以内	骨材	溶出	港湾用途溶出量基準
				出荷検査	出荷検査を省略する元素 ⁵⁾						
					出荷検査を省略しない元素			製造ロット毎	骨材まま	含有	含有量基準×10 ⁴⁾
			限定 （B-2）	年次検査	8元素 ³⁾			1年以内	利用模擬 または 骨材 ⁶⁾	溶出	港湾用途溶出量基準
				出荷検査 判定値を 設定する 試験 ＋ 出荷検査	出荷検査を省略する元素 ⁵⁾						
					出荷検査 を省略し ない元素	出荷検査判定値を設定 しない元素		製造ロット毎	骨材	含有	含有量基準×10 ⁴⁾
						出荷検査 判定値を 設定する 元素	出荷検査判定値を設定する試験	3年以内	利用模擬	溶出	] 検量線作成
									骨材	含有	
								出荷試験		製造ロット毎	

1) 港湾用途：最初の用途が再使用の想定されない用途 一般用途：最初の用途が再利用が想定される用途

2) 利用方法：スラグ骨材がコンクリートに利用される方法（配合率等）

3) カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ひ素、ふっ素、ホウ素

4) 一般用途の含有量基準値の10倍の値

5) 年次検査により環境安全品質をはるかに下回り、スラグ骨材から検出される可能性が低く出荷検査を省略する。

6) 化学物質ごとに、検査を利用模擬試料で実施するか骨材試料で実施するかを選択できる。